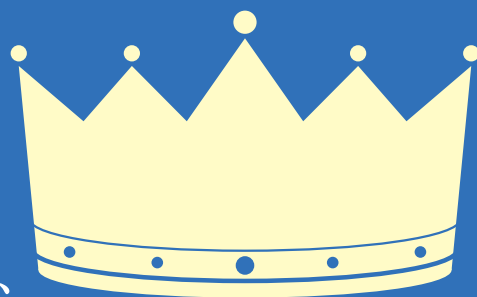


かんむり 彩瀬 まる



常日頃から物語を評するに

「傑作」を使うと負けと思っているが、
本作は言葉を失うほどの大傑作。

選択と後悔、そして懊悩と諦念の連続で成り立つ人生と、
生きづらい時代の空気をそのままに再現した、
令和を牽引する物語

—— 内田 剛 (ブックジャーナリスト)

「男の人は女よりも
みじめになりやすいんだ」

「手を伸ばせば
さわれる距離にいても、
よく知らなかった」

「私の体は
生まれたときからずっと、
私が自由に扱っていい
ものではなかった」

「制服を作った人、
絶対にスカート
穿いたことない」

「あつくんは
弱くないよ」

「だから、
なかった
ことにした」

こんなはずじゃなかった、
正解がわからない、なにもわからない。
私たちの日常のままならない、けれど、
かけがえのない瞬間を切り取った輝く言葉の洪水が
今あなたに降り注ぐ——。

今、一番

あなたに届く物語、
大共感No.1



幻冬舎

「私の
かんむりは
どこに
あるの」

「失敗ってなんだろう？」

「自分も相手も
傷つけない、
幸せな性欲つて
ないのかなあ」

「覚えておこう。
忘れないようにしよう」

「二度も抵抗しないで
逃げるんじや、
ただ逃げ癖がつくだけ」

「ひやつかい
チャンスあげる」

「もう二度と、
居たくない場所には
行かない」